

令和4年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

－教育目標－

心豊かで たくましく 郷土を愛し

その発展に尽くす市民を育む教育を進める

令和5年8月

鹿角市教育委員会

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

目 次

I 学校教育の重点目標と事務・事業 ≪担当課 総務学事課≫

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

①	児童生徒学力向上対策事業	P 1
②	課題研究活性化事業	P 1
③	読書活動の推進	P 1
④	ふるさと・キャリア教育推進事業	P 2
⑤	特色ある学校づくり推進事業	P 2
⑥	ふるさとかづの絆プラン事業	P 2
⑦	夢の教室開催事業	P 2
⑧	鹿角音楽祭開催事業	P 2
⑨	鹿角の未来を担う中学生交流会開催事業	P 2
⑩	I C T活用教育事業	P 3
⑪	外国語活動充実事業	P 3

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

①	Q－U検査	P 4
②	鹿角市給食センターの機能強化	P 4
③	中学校部活動指導員配置事業	P 4
④	5歳児検診すくすく健康相談	P 4
⑤	特別支援教育支援員配置事業	P 4
⑥	課題研究活性化事業【再掲】	P 5
⑦	かづのこもれび教室運営事業	P 5
⑧	かづのこもれび相談事業	P 5
⑨	奨学資金貸付事業	P 5

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

①	通学対策事業	P 6
②	獣害・感染症対策	P 6
③	鹿角市学校多忙化防止計画の推進	P 6
④	鹿角市初任者研修の充実	P 7
⑤	コミュニティ・スクールの推進	P 7
⑥	特色ある学校づくり推進事業【再掲】	P 7
⑦	ふるさとかづの絆プラン事業【再掲】	P 7

Ⅱ 生涯学習推進の重点目標と事務・事業 ≪担当課 生涯学習課≫

(1) 生涯学習推進体制の充実

①-1 地域学校協働活動推進事業	P 8
①-2 成年教育講座	P 8
①-3 秋田県子ども会育成連合会との連携事業	P 8
② インターネットを活用した情報発信	P 8
③ 施設間連携事業	P 9
④ 読書活動の推進	P 9

(2) 地域を担う人材の育成

①-1 「どこさデモ」出前講座の開催	P10
①-2 かづの人財発掘事業	P10
②-1 花いっぱい運動	P10
②-2 高校生ボランティアの活動支援	P10

(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援

①-1 地域学校協働活動推進事業【再掲】	P11
①-2 学校運営協議会との連携	P11
② 家庭教育推進事業	P11
③ 青少年健全育成事業	P11

(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

①-1 二十歳のつどい開催	P12
①-2 市民センターにおける同世代・青少年教育関連事業	P12
①-3 高齢者の活動支援	P12
② 生涯学習奨励員活動	P12

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

① 「比内支援学校かづの校」の学習活動支援	P13
②-1 パラリンピック種目体験	P13
②-2 障がい者体験	P13
③ 日本語講座開設事業	P13

Ⅲ スポーツ推進の重点目標 《担当課 スポーツ振興課》

(1) 生涯スポーツの普及推進

- ① チャレンジデーの開催 P14
- ② タートルマラソンの開催 P14
- ③ 総合型地域スポーツクラブの育成 P14

(2) スポーツによるまちづくりの推進

- ① スポーツ拠点づくり推進事業 P15
- ② 「スキーのまち」の推進 P15
- ③ 「駅伝のまち」の推進 P15
- ④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業 P15
- ⑤ スキー駅伝選手育成強化対策事業 P15

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

- ① 市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 P16
- ② 指導者の育成と活用 P16

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

- ① スポーツ施設の利用促進 P17
- ② スポーツ施設の整備・充実 P17

IV 文化芸術振興の重点目標 <担当課 生涯学習課>

(1) 文化芸術活動の振興

- ① 文化の杜交流館事業 P18
- ② 文化芸術振興事業 P18

(2) 文化財の保存と活用

- ①-1 文化財保存事業 P19
- ①-2 大日堂舞楽保存伝承事業 P19
- ①-3 声良鶏保存奨励事業 P19
- ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 P19
- ②-1 歴史民俗資料館の運営 P19
- ②-2 先人顕彰館の運営 P19
- ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 P19

(3) 世界遺産の活用推進

- ① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 P20
- ② 大湯環状列石環境整備事業 P20
- ③-1 普及啓発・情報発信 P20
- ③-2 学習機会の提供 P20
- ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 P20

教育委員会事務事業点検評価 <概要> P21～25

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 学校教育の基本方針と重点目標

1 基本方針	社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ、志の高い子どもを育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。	
2 重点目標	(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実 ①自己実現のために必要な確かな学力の定着 ②ふるさとを支える気概を持った人材の育成 ③情報活用能力とコミュニケーション能力の育成	
3 成果指標	標準学力調査における全国平均正答率との比較 (小学 4～6 年生) (前年) 100% (実績) 103% (R7 目標) 103% 標準学力調査における全国平均正答率との比較 (中学 1～2 年生) (前年) 110% (実績) 103% (R7 目標) 103%	
事務・事業の内容		成果・課題等
①児童生徒学力向上対策事業 標準学力調査 小学校 4～6 年生 610 人 中学校 1～2 年生 426 人 hyper-QU 検査 小学校 4～6 年生 延べ 1,238 人 (年 2 回) 中学校 1～2 年生 延べ 888 人		標準学力調査では、各校で結果の分析や活用が行われており、全国平均正答率との比較では、小学 4～6 年生、中学 1～2 年生ともに本市の平均が全国平均を上回った。また、hyper-QU 検査の結果を活用し、児童・生徒の学力と学級の状態を関連させた分析を行い、学級集団の状態を把握して学級経営や授業の展開に生かすことができた。
②課題研究活性化事業 研修会開催 2 校 1 団体 97 人参加 ・十和田小：「主体的によりよい生活や人間関係づくり、自己実現を図る力を育む特別活動」 文部科学省初等中等教育局視学官 安部恭子氏 ・大湯小：「道徳の授業改善 子供が変わる！授業が変わる！～多面的・多角的に考えるための手立ての工夫」 秋田公立美術大学副学長 毛内嘉威氏 ・鹿角校長会：「世界から見た日本の教育とこれから」 Google for Education 日本統括 小出泰久氏		小中学校の教職員を対象として、特別活動、道徳、ICT 教育について、2 校 1 団体で講師を招へいた研修会を実施した。それぞれ第一線で活躍されている講師による貴重な講演であり、参加者は理解を深めることができた。十和田小では、講師に実際の授業も見ていただき、指導助言を受けることができた。また、大湯小ではワークショップを取り入れた実際の授業をイメージした研修ができた。
③読書活動の推進 図書館との連携事業 (図書館見学・職場体験の受入れ、夏休み読書セット貸出や移動図書館の学校訪問、ブックリストの配布と本紹介 等)		朝読書やビブリオバトルなどの学校ごとの取組みや、図書館との連携等により、読解力や想像力、思考力、表現力を育む読書活動の推進を図ることができた。

④ふるさと・キャリア教育推進事業 ふるさと・キャリア教育コーディネーター配置 1 人 夢探究プロジェクト（夢たん）の受入事業所数 181 社 職場見学：参加児童数 918 人、利用事業所 61 社 職場体験：参加生徒数 273 人、利用事業所 119 社 個人職場体験：参加児童生徒 22 人、事業数 2 回 「夢たん」通信：18 号発行 地域イベント等へのボランティア （新型コロナウイルス感染症対策のため依頼なし）	ふるさと・キャリア教育コーディネーターが学校と事業所をつなぎ、市内の全小中学校において職場見学や職場体験を実施することができた。児童生徒に市内の様々な仕事を知ってもらうほか、企業や地域で働く方との関わりを通して望ましい勤労観や職業観を育むことにつながっている。 また、「夢たん」通信を発行し、各校のキャリア教育の取組みを紹介することができた。
⑤特色ある学校づくり推進事業 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校 6 校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校 4 校すべてで実施	すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々を外部講師として招へいし、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなどに取り組むことができた。当日の体験学習では前年度の課題を改善するなどの工夫が見られたほか、事後の学習では、学んだことをまとめて地域等で発表し、表現力の向上につながることができた。
⑥ふるさとかつの絆プラン事業 小学校 6 校すべて実施 開催総数 8 回 中学校 4 校すべて実施 開催総数 4 回	各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒が交流したり、他校の活動と一緒に参加したりすることで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。
⑦夢の教室開催事業 小学校 1 校（オンライン実施）	J F A ころのプロジェクト「夢の教室」の開催により、協力して課題を解決することや相手を思いやる気持ち、夢や目標に向かって努力することの大切さなどを児童に伝えることができた。
⑧鹿角音楽祭開催事業 11 月 3 日（木）開催 会 場：文化の杜交流館コモッセ 出演者：小学校スクールバンド部等 139 人 来場者：292 人	コロナ禍により 3 年振りの開催となり、小学校のスクールバンド部とミュージックパフォーマンス部が出演し、観覧者は家族限定で開催した。感染症対策により練習機会の確保が難しかったものの、子どもたちによる息のあった素晴らしい演奏が披露された。
⑨鹿角の未来を担う中学生交流会開催事業 10 月 20 日（木）開催 会 場：文化の杜交流館コモッセ 参加者：市内 4 中学校 682 人	鹿角市市制施行 50 周年記念事業として実施した「鹿角の未来を担う中学生交流会」は、すべての中学生がコモッセに一堂に会し、各地区に伝わる伝統文化や各校の特色ある取組みについて発表したり、本市の未来についてパネルディスカッションを行ったりするなど、自らがふるさとの課題を当事者として捉え、ふるさと鹿角への想いを深めることができた。

⑩ I C T活用教育事業 校内通信ネットワークの活用 (小学校 6 校、中学校 4 校) 児童生徒 1 人 1 台端末の活用 計 2,098 台 小学校 児童 1,150 台 指導者 182 台 中学校 生徒 686 台 指導者 80 台 電子黒板配置 80 台 小学校 6 校・・・47 台 中学校 4 校・・・33 台 I C T支援員の配置 3 人 (10 月～3 月)	小中学校の普通教室に電子黒板を追加導入したことにより、授業で学習用端末を利用しやすい環境が整備されたほか、I C T機器を積極的に活用することで、必要な情報が収集でき、画像・動画等による多角的な視点から得られる情報を駆使して学ぶことにより、児童生徒の学習意欲と理解力の向上が図られている。 また、I C T支援員の配置により、I C T機器を活用する授業や校務に対するサポートが充実したほか、教員の負担軽減を図ることができた。 学習用端末の家庭への持ち帰り実証については、全小学校で実施し、家庭における学習での活用やインターネット接続の状況について検証を実施した。
⑪外国語活動充実事業 A L T (外国語指導助手) 配置 3 人 学校訪問 小学校 授業時数 1,680 時間 配置時数 1,219 時間 (配置割合 73%) 中学校 授業時数 3,360 時間 配置時数 844 時間 (配置割合 25%) (週 4 時間のうち 1 時間)	小学校では、A L Tが実際に児童とやりとりをする機会を多く設けることで、児童の話す力と聞く力が少しずつ付いてきている。 中学校では、A L Tが授業で使うスライドを作成し、生徒の反応を確認したり、教員の意見を取り入れたりするなど、内容を改善して授業に取り組んだ。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実 ①豊かな心の育成 ②健やかな体の育成 ③一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進	
3 成果指標	市内教職員の研修会等参加率 (前年) 40% (2校1団体3回開催) (実績) 54% (2校1団体3回開催) (R7目標) 25%	
事務・事業の内容		成果・課題等
①Q-U検査 年2回実施 hyper-QU検査 小学校 4～6年生 延べ 1,238人 (年2回) 中学校 1～2年生 延べ 888人		hyper-QU検査を活用した研修会を行うなど、各校で結果を活用した生徒指導の実践や研修の充実が図られた。児童生徒の学力向上につなげるため、学力と学級の状態を関連させた分析を行い、学級集団の状態を把握して学級経営や授業の展開に生かすことができた。
②鹿角市給食センターの機能強化 たらふくかづのの日 年5回実施		地場産物を多く取り入れたメニューや郷土料理の提供、給食に関する情報を掲載した給食だよりの発行等により、地域の自然や文化などへの理解と郷土愛を深めることができた。 また、検食体制の見直しにより、安全安心に配慮した給食の提供に努めた。 物価高騰の影響による給食賄材料費の増額分を市が負担したことで、給食の質の確保のほか、保護者の負担軽減が図られた。
③中学校部活動指導員配置事業 花輪中学校陸上競技部1人配置 十和田中学校バスケットボール部1人配置 花輪中学校吹奏楽部1人配置		中学校部活動指導員を継続して配置したことにより、保護者の理解や協力が得られやすくなり、生徒の実情に応じた指導を行うことができた。 また、専門的な指導を受けることで、多くの生徒が技能レベルを高めたり意欲を維持し続けたりすることができた。
④5歳児検診すくすく健康相談 受診者 143人		すこやか子育て課と連携して、5歳児及びその保護者を対象に、発達の確認や子育ての相談支援事業を実施することで、発達障がい等の早期発見や支援につなげることができた。また、就学に向けての不安や悩みに対する心のケアが図られた。
⑤特別支援教育支援員配置事業 小学校 6校 14人 中学校 4校 3人		通常学級に在籍している発達障害傾向等の課題を抱えている小中学生に対して、小学校では主に生活面、中学校では主に学習面の支援を行った。各校では支援員の配置計画を作成し、授業に集中したり、学習内容を理解したりすることができるように、個々に応じた学習活動のサポートを実施した。

⑥課題研究活性化事業【再掲】 研修会開催 2 校 1 団体 97 人参加 ・十和田小：「主体的によりよい生活や人間関係づくり、自己実現を図る力を育む特別活動」 文部科学省初等中等教育局視学官 安部恭子氏 ・大湯小：「道徳の授業改善 子供が変わる！授業が変わる！～多面的・多角的に考えるための手立ての工夫」 秋田公立美術大学副学長 毛内嘉威氏 ・鹿角校長会：「世界から見た日本の教育とこれから」 Google for Education 日本統括 小出泰久氏	小中学校の教職員を対象として、特別活動、道徳、I C T 教育について、2 校 1 団体で講師を招へいた研修会を実施した。それぞれ第一線で活躍されている講師による貴重な講演であり、参加者は理解を深めることができた。十和田小では、講師に実際の授業も見ていただき、指導助言を受けることができた。また、大湯小ではワークショップを取り入れた実際の授業をイメージした研修ができた。
⑦かづのこもれび教室運営事業 入級申請 小学生 6 人、中学生 11 人、計 17 人	自閉症傾向や対人不安などの要因を背景とした長期欠席及び不登校傾向の児童生徒にとって、こもれび教室は安心できる居場所になっており、学校復帰につながるように指導員が個別の学習指導や体験活動を行っている。また、相談員が児童生徒とその保護者の相談にのり、心理的な支援を行っている。
⑧かづのこもれび相談事業 対象：不登校傾向の中学生 15 人と小学生 20 人 相談件数（延べ件数）：来所 529 件、電話 568 件 （合計）1097 件 専門員による相談件数：カウンセリング 26 件、 心理判定・報告 39 件	不登校傾向の児童生徒の状況を学校や保護者から継続的に聞き取り、必要に応じて臨床心理士による心理検査や関係機関との連携につなげている。学校だけでは解決できない複雑な要因が多く、今後も個々に応じたきめ細やかな支援を続ける必要がある。
⑨奨学資金貸付事業 実績：令和 4 年度貸付額 13,320,000 円 高専後期 2 年～大学（月額 30,000 円） 37 人	高等教育機関等に進学希望で経済的支援を必要としている生徒や学生に奨学資金を貸し付けすることにより、経済的負担の軽減を図るとともに進学や技能習得に寄与することができた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現 ①安全・安心・良質な学びの場づくりの推進 ②教職員のモチベーションと資質の向上 ③地域とともに推進する特色ある学校づくりの推進
3 成果指標	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合(小学6年生) (前年) 80.8% (実績) 67.8% (R7 目標) 85.0% ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合(中学3年生) (前年) 63.8% (実績) 61.3% (R7 目標) 85.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合(小学6年生) (前年) 76.0% (実績) 60.5% (R7 目標) 66.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合(中学3年生) (前年) 60.3% (実績) 48.4% (R7 目標) 66.0%
事務・事業の内容	
①通学対策事業 通学路合同点検の実施 8月4日 小中学校通学路(改善・要望箇所)16ヵ所 スクールバス・タクシー利用 小学校 遠距離 6校107人 準遠距離 2校27人 中学校 遠距離 2校67人 準遠距離 3校78人 通学対策費補助金(路線バス定期券購入費補助) 小学校 遠距離 3校40人 準遠距離 4校47人 中学校 遠距離 3校21人 準遠距離 2校24人	成果・課題等 通学路合同点検については、各学校から要望のあった通学路の現地確認を関係者とともに実施したことで、危険箇所等の情報共有が図られたほか、改善が必要な箇所について、各関係機関に対して安全確保に向けた要望を行った。 スクールバス・スクールタクシーの運行により、路線バスが運行していない地域の児童生徒の通学手段を確保するとともに、路線バス定期券の購入補助により、通学に係る費用の負担軽減が図られた。
②獣害・感染症対策 熊よけ鈴…新入学児童へ配付 熊忌避剤…全小中学校へ配付 通学路の巡回、見守り…花小、柴小、尾小、花中、尾中 緩衝帯整備事業…花小、尾小、大小、花中周辺の雑草等で 見通しの悪い場所の下刈りを実施 感染症対策用消耗品等…消毒液、マスク、抗原検査キット、 CO ² モニター、パルスオキシメーター等の購入	登下校時の安全対策として新入学児童へ熊よけ鈴を配付するとともに、学校周辺に熊を近づけないように忌避剤の設置や雑草等の下刈りを行ったほか、通学路の巡回や見守り活動を行い、児童生徒の安全確保が図られた。 また文部科学省の衛生管理マニュアルに基づき、学校における感染症対策の徹底を図った。
③鹿角市学校多忙化防止計画の推進 「第2次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画」に基づき、学校の業務改善を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保や教育の質的向上を図っている。 令和4年度の勤務時間外在校時間の月平均(目標:月平均45時間以内) 小学校:年間平均34.9時間(前年度比-7.8時間) 中学校:年間平均47.2時間(前年度比-5.8時間)	多忙化防止計画に基づき、各校で勤務時間の管理、日常事務や各種行事に関して目標を設定した業務改善計画を策定し、それぞれ改善に向けた取組みを行った。令和4年度の勤務時間外在校時間の年間平均は、小・中学校ともに減少しており、改善が図られている。

④鹿角市初任者研修の充実 小学校教諭 8人 中学校教諭 6人 養護教諭 2人 6月1日、8月23日実施 (先人顕彰館、中滝ふるさと学舎、滝めぐり、グループ協議、 教育長講話 等)	新任教員が研修を通じて地域の歴史・文化・自然等に直接触れることにより、地域の実情等について理解を深めるとともに、指導力と使命感を養わせる機会となった。
⑤コミュニティ・スクールの推進 8協議会（尾去沢・八幡平は小中合同） 委員 延べ114人 協議会3回、熟議1回以上開催	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入して2年目となり、学校運営協議会が適切に運営されることにより、学校と地域住民や保護者等の委員が情報を共有するとともに、学校運営に関する意見を生かし、地域と一体となって運営に取り組むことで子どもたちを育む意識の醸成が図られ、地域とともにある学校づくりの推進につなげることができた。
⑥特色ある学校づくり推進事業【再掲】 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校6校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校4校すべてで実施	すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々を外部講師として招へいし、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなどに取り組むことができた。当日の体験学習では前年度の課題を改善するなどの工夫が見られたほか、事後の学習では、学んだことをまとめて地域等で発表し、表現力の向上につなげることができた。
⑦ふるさとかつの絆プラン事業【再掲】 小学校6校すべて実施 開催総数8回 中学校4校すべて実施 開催総数4回	各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒が交流したり、他校の活動と一緒に参加したりすることで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

Ⅱ 生涯学習推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実し、その成果を生かすことができる、地域社会の実現を目指す。
2 重点目標	(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成 ①社会教育関係団体、福祉関係団体、自治会等との連携 ②インターネットの活用による情報発信の強化 ③社会教育施設等の連携による生涯学習環境の充実 ④読書を通じた多様な学習活動の推進
3 成果指標	インターネットを活用した講座の年間開催数 (前年) 7 件 (実績) 3 件 (R7 目標) 5 件 社会教育施設年間利用者数 (前年) 257,136 人 (実績) 236,681 人 (R7 目標) 313,300 人 図書館(移動図書館車含) (前年) 93,226 人 (実績) 85,766 人 (R7 目標) 130,000 人 先人顕彰館 (前年) 1,520 人 (実績) 1,309 人 (R7 目標) 1,600 人 歴史民俗資料館 (前年) 2,715 人 (実績) 2,649 人 (R7 目標) 1,700 人 大湯ストーンサークル館 (前年) 30,587 人 (実績) 29,775 人 (R7 目標) 30,000 人 文化の杜交流館(図書館、未来センター、花輪市民センター除く) (前年) 129,088 人 (実績) 117,182 人 (R7 目標) 150,000 人
事務・事業の内容	成果・課題等
①-1 地域学校協働活動推進事業 ・わくわく土曜教室の開催 21 回 ・わくわく土曜教室参加者 延べ 343 人 ・わくわく土曜教室ボランティア 延べ 82 人 ①-2 成年教育講座 ・講座の開催 2 回(十和田高校・花輪高校) ・参加者 144 人 ①-3 秋田県子ども会育成連合会との連携事業 ・チャレンジ・キッズでの車いす体験、手話体験など	子育て支援関係団体との連携では、今年度もわくわく土曜教室を児童センターと共催したほか、チャレンジ・キッズでは県及び他市町村子ども会育成団体、障がい者支援団体との連携により、子どもたちへの体験活動や子ども会活動への支援ができ、共生社会に対する市民の理解が深まった。 成年教育講座では、参加者が成年年齢引き下げに伴う権利や義務、消費者契約に関する知識を深めることができた。
②インターネットを活用した情報発信 ・SNSアカウント開設数 4 サイト ・二十歳のつどいオンライン参加者 281 人 ・古文書シンポジウムオンライン参加者 22 人	インターネットの活用では、すべてのアカウントで登録者が増加し、生涯学習関連情報の市内外への発信を効果的に行うことができた。 二十歳のつどいや古文書シンポジウムなどハイブリット方式で開催した事業ではオンライン参加者も多く、一定のニーズがあることを確認できた。

③施設間連携事業 ・文化の杜交流館連携事業（コモッセバースデイ）の開催 参加者 延べ 648 人 ・地域学校協働本部と花輪図書館、歴史民俗資料館との共催事業 1 件	コモッセバースデーイベントの開催では、SDGs をテーマとした幅広い学習活動への動機づけとなる体験機会を提供することができたほか、障害者福祉への理解増進にも寄与することができた。 社会教育施設同士の連携により、双方の施設利用者数の増加につながり、学びの幅を広げることができた。
④読書活動の推進 ・花輪図書館 読書感想画コンクール等 32 事業 （十和田図書館との共通事業含む） ・十和田図書館 郷土を語る会、よるとしよ等 27 事業 ・十和田図書館施設更新 基本設計・実施設計の完了	図書館利用者数、貸出冊数はコロナ禍による利用離れから回復していないが、一方で移動図書館車はイベントへの出張貸出が増加しており、新たなステーション開拓もあって利用者数が前年度を上回り過去最高となった。 十和田図書館の更新については、設計業務を完了したことにより、令和 7 年度のオープンを目指して 5 年度からの着工に向け必要な予算を確保することができた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(2) 地域を担う人材の育成 ①意欲的に学習活動に取り組む人材の育成 ②市民の主体的な地域活動への支援		
3 成果指標	どごさデモ出前講座年間利用件数 (前年) 78 件 (実績) 123 件 (R7 目標) 170 件 市民センター新規サークル登録団体延団体数 (5 年累計) (前年) 7 団体 (実績) 20 団体 (R7 目標) 20 団体		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①-1「どごさデモ」出前講座の開催 ・提供講座数 43 メニュー ・全体開催回数 123 回 ・参加者 延べ 3,357 人 ①-2 かつの人財発掘事業 ・防災講座の開催回数 4 回 ・参加者 延べ 121 人		どごさデモ出前講座は開催ニーズの多いメニューの充実に努めてきたことにより、高齢者福祉や健康関連の講座開催が多い状況にあるほか、近年は防災関連講座の利用も増加していることから、全体の利用状況は実施件数・参加者数ともに増加し、学習機会の提供が図られている。 かつの人財発掘講座は、テーマを「防災」として実施し、参加者には身近にある様々な資源を活用した防災への備えなどを体験してもらうことで、地域活動にも役立つ防災スキルの習得機会を提供することができた。	
②-1 花いっぱい運動 ・参加団体数 58 団体(花の種子、花苗の斡旋) ・全県花だんコンクールへの参加 8 団体 ・花づくり講習会の開催 1 回 参加者数 37 人 ②-2 高校生ボランティアの活動支援 ・社会参画事業参加者数 花輪高校 197 人、十和田高校 76 人		花いっぱい運動では、花苗の注文数・参加団体数・全県花だんコンクールへの応募数等、すべての項目が増加傾向にある。また「花づくり講習会」は、事後アンケートですべての参加者が「参考になった」と回答するなど満足度の高い講習会となった。地域づくりの一環として花いっぱい運動が活用され、地域活動への参画意識を高めることに寄与できた。 高校生ボランティアの活動は、コロナ禍にあっても参加者数が回復傾向にある。イベント運営の補助や除雪ボランティアにも多くの生徒が参加しており、幅広い分野で地域に貢献できる活動を展開することができた。	
点検及び評価			
□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

2 重点目標	(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援 ①地域学校協働活動の推進 ②家庭教育支援の推進 ③青少年の健全育成を支える市民活動の推進
3 成果指標	地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数 (前年) 1,003 人 (実績) 2,041 人 (R7 目標) 1,250 人 青少年育成鹿角市民会議の会員数 (前年) 315 会員 (実績) 311 会員 (R7 目標) 350 会員
事務・事業の内容	
①-1 地域学校協働活動推進事業【再掲】 ・地域学校協働本部会議の開催 2 回 ・コーディネーターの配置 7 人(統括 1 人、地域コーディネーター 6 人) ・学校支援ボランティア 延べ 1,957 人 ・わくわく土曜教室の開催(再掲) ボランティア延べ 82 人 ・かづの未来塾の開催 6 回、参加者延べ 96 人 ・かづの未来塾ボランティア 延べ 2 人 ・子ども対象事業年間スケジュール表「ばらえてい いんふお」の発行 通年版 1 回、改訂版 2 回発行 ①-2 学校運営協議会との連携 ・合同研修会の開催 1 回 ・学校運営協議会における熟議への講師派遣 4 回	成果・課題等 協働活動(旧学校支援活動)に携わるボランティア数が大幅に増加した。かづの未来塾は冬のみで開催となったが、リピーターが増える等、参加者や保護者の満足度が高かった。 研修会等の開催や SNS、チラシを活用した広報活動により、活動が徐々に認知されてきており、コロナ禍にあっても、子どもたちの学びを支えたいと考える市民の増加につながった。
②家庭教育推進事業 ・保護者向け家庭教育講座の開催 小学校 1 校・中学校 2 校 参加者延べ 204 人 ・小学校新入学児童保護者向け子育て講座の開催 小学校 6 校 参加者延べ 170 人	家庭教育講座は、事前に学校から講座内容の希望を聞き取り、学校が「保護者へ伝えたい、保護者に聞いてほしい」内容の講話を届けることができた。 子育て講座は、就学時健診時に同時開催することにより、多くの参加者の聴講が得られ、小学校へ入学する保護者の不安解消につながった。
③青少年健全育成事業 ・声かけ運動 年 10 回実施(4・9 月は一斉キャンペーン) ・青少年育成鹿角市民会議 30 周年記念式典 参加者 60 人 ・少年の主張大会 中学生弁士の参加者 5 人 ・青少年を育てる市民のつどい 参加者 100 人	「青少年を育てる市民のつどい」で鹿角の教育環境についての講演を開催したほか、青少年育成鹿角市民会議 30 周年記念式典やわたしの主張県北地区予選大会などの大規模な事業を実施し、地域で共に子どもを見守り育てる環境の充実に向けた取組みを前進させることができた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援 ①同世代交流・世代間交流、人的ネットワークの拡充 ②地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動の推進		
3 成果指標	生涯学習・社会教育講座年間参加者数 (前年) 10,246 人 (実績) 13,285 人 (R7 目標) 18,000 人 ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所延べ件数 (5 年累計) (前年) 10 件 (実績) 10 件 (R7 目標) 15 件		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①-1 二十歳のつどい開催 ・式典、記念公演の開催 1 回 (1 月) 参加者 177 人 ・新成人による実行委員会の開催 委員 10 人 6 回 ①-2 市民センターにおける同世代・青少年教育関連事業 ・花輪市民センター「サタプロ」 9 回開催 参加者延べ 62 人 ・十和田市民センター「わんぱくスクール」 10 回開催 参加者延べ 268 人 ・尾去沢市民センター「ふれあいかなやまスクール」 9 回開催 参加者延べ 377 人 ・八幡平市民センター「青年レクリエーション事業」 2 回開催 参加者延べ 38 人 ①-3 高齢者の活動支援 ・老壮大学等参加者延べ 2,098 人		「二十歳のつどい」は、対象者有志で組織する実行委員会の主体的な活動を支援したことにより、ライブ中継を行うなど工夫した内容にすることができた。 市民センター事業では青少年が集い、体験学習や交流を深める事業を各地区で展開しており、花輪地区の「サタプロ」では自分たちで企画したイベントの照明を自分たちで実践するなど、同世代が協力し合うことで大きな成果へとつなげた事例もあった。 高齢者の生きがいづくりや仲間づくりでは、各市民センターを拠点とした学習活動や健康づくりなど、地域の特徴を生かした活動が実施できた。	
②生涯学習奨励員活動 ・生涯学習奨励推進協議会の開催 2 回 ・北鹿地区生涯学習奨励員連絡協議会事業への参加		生涯学習奨励員をはじめ、多くの地域住民が協働活動として自身のスキルを子どもたちの学びに還元している。奨励員については、各地区の文化祭で活動内容を展示・発表しているほか、市民センターと連携して講座を開催することで、広く市民の生涯学習への関心と意欲を高めている。生涯学習奨励員間の意見交換や他地区との事業を通じた交流により、奨励員の意欲向上や自身の活動の広がりにつなげることができた。	
点検及び評価			
□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

2 重点目標	(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現 ①障がい者・児童の学習活動の支援 ②共生社会に対する市民の意識向上 ③日本語を母国語としない市民の日本語及び日本文化に対する学びの支援		
3 成果指標	障がい児・者に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数 (5 年累計) (前年) 6 講座 (実績) 12 講座 (R7 目標) 20 講座 日本語教室延べ参加者数 (前年) 266 人 (実績) 236 人 (R7 目標) 280 人		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①「比内支援学校かづの校」の学習活動支援 ・十和田図書館 TowadaGallery での「比内支援学校かづの校ミュージアム」の開催 見学者 111 人 ・声かけ運動一斉キャンペーンでのリコーレゾの活躍		比内支援学校かづの校の児童生徒の活動支援を展開し、ミュージアムでは、障がいのある児童生徒の学習活動の成果を広く市民へ伝える一助となった。 学校卒業後の生活や就労の基盤となる力を身に付けることのできる学習機会の提供が求められており、日常生活や社会生活を支援する障害福祉サービスと連携した学びの場づくりが必要である。	
②-1 パラリンピック種目体験 ・十和田 3 学園合同研修会「ボッチャ大会」 参加者 60 人 ②-2 障がい者体験 ・はなわんこのわくわく土曜教室「不自由さミッション」 参加者 66 人 ・コモッセバースデーイベントでの車いす体験、手話体験、点字体験 参加者 372 人 ・チャレンジ・キッズでの車いす体験等 参加者 50 人		夏季・冬季パラリンピックの開催を契機としたパラスポーツに対する関心の高まりを一過性のものとさせることなく、障がいの有無に関わらず参加できる体験講座を複数の事業で実施した。 このほか、実際に車いすや点字器を使用したり、手話を必要とする方との会話を行う体験型の機会を提供することで、参加者の共生社会に対する理解が深まった。	
③日本語講座開設事業 ・日本語教室の開催 28 回、参加者延べ 236 人		日本語教室は引き続き通信形式での語学習得支援を実施した。地域生活における不自由さの軽減が図られたほか、実習生にあっては日本語検定試験対策も行い、企業に対する支援にもつながった。 技能実習生の受講割合が多く、利用者が偏っている状況にあるため、多文化共生社会の推進に寄与する交流面の取組みも強化し、幅広い受講者の継続的な学習支援にしていく必要がある。	
点検及び評価			
□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かして活力に満ちたまちづくりを展開する。
--------	--

2 重点目標	(1) 生涯スポーツの普及推進 ①生涯スポーツの充実 ②スポーツによる健康づくりの推進 ③スポーツボランティアの普及促進
--------	---

3 成果指標	週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 (前年) 52.8% (実績) 61.5% (R7 目標) 65%
--------	--

事務・事業の内容	成果・課題等
①チャレンジデーの開催 参加率 22.6% 参加者 6,603 人 対戦相手の群馬県吉岡町 (21.9%)	気軽に参加できるスポーツイベントとして定着してきたチャレンジデーは、コロナ禍による影響を抜け出せず、参加率の低下となった。
②タートルマラソンの開催 【中止】	当日の悪天候により中止した。
③総合型地域スポーツクラブの育成 市内で3つのクラブが活動しており、地域住民を対象に子どもから高齢者まで、それぞれの志向やレベルに合わせたスポーツ教室などを実施	総合型地域スポーツクラブの育成では、ウォーキング事業に補助しているが、コロナ禍以前に近い参加者となった。

点検及び評価

☐ 目標を上回る
 ☐ ほぼ目標どおり
 ☒ 目標をやや下回る
 ☐ 目標を大幅に下回る

2 重点目標	(2) スポーツによるまちづくりの推進 ①「スキーのまち」の推進 ②「駅伝のまち」の推進 ③スポーツ拠点づくりの推進 ④子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実		
3 成果指標	スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (前年) 2,372 人泊 (実績) 2,398 人泊 (R7 目標) 3,600 人泊 共通シーズン券購入補助制度利用人数 (前年) 79 人 (実績) 81 人 (R7 目標) 90 人 浅利純子杯争奪鹿角駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 (前年) 73 チーム (実績) 95 チーム (R7 目標) 120 チーム		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①スポーツ拠点づくり推進事業 サマーノルディックスキー大会 参加者数 189 人 スポーツ合宿奨励補助事業 申請団体 43 団体 交付人数 662 人		スポーツ合宿奨励補助事業については、前年度比で微増となっており、約 70%がスキー競技における合宿となっているが、陸上競技がコロナ禍以前と同様に利用されるようになり、テニス競技が新規で利用された。	
②「スキーのまち」の推進 全国ローラースキー選手権大会 参加者数 225 人 岩泉杯松橋杯争奪少年ジャンプ大会 参加者数 21 人 ジュニアスキーヤー共通シーズン券発行 発行人数 81 人		コロナ禍での大会開催であったが、ローラースキーについては、国際スキー連盟公認大会として実施し、韓国代表選手をはじめ国内選手も多く出場した。 共通シーズン券は、前年度比で微増となっており、スキー場利用の一助となっている。	
③「駅伝のまち」の推進 十和田八幡平駅伝競走全国大会 エントリーチーム数 25 チーム 参加チーム数 22 チーム 浅利純子杯争奪鹿角駅伝 エントリーチーム数 70 チーム 参加チーム数 24 チーム		十八駅伝はコロナ禍での開催により、直前で棄権したチームもあったが、休日開催によるチーム参加も見られた。 浅利純子杯争奪鹿角駅伝については、開催直前で県コロナ感染警戒レベルの変更により、急遽県内チームに制限して開催することとした。	
④はばたけアスリート鹿角コーチング事業 陸上ジュニアクリニック 【中止】 ローラースキージュニアクリニック 【中止】 楽天野球教室 参加者数 29 人 ジュニアスキーヤー（スキー授業）指導者派遣事業 小学校 6 校、中学校 3 校 延べ 26 回 136 人 特別講師派遣事業 比内支援学校、ハニーハイム		ジュニアクリニックについては、感染状況により中止となったが、スキー授業については、コロナ禍にあっても、感染状況を見極め計画どおり実施することができた。	
⑤スキー駅伝選手育成強化対策事業 アルペン 3 事業、クロカン 2 事業、ジャンプ 4 事業、駅伝 1 事業		去年は、遠征できない状況にあったが、北海道遠征などにより、強化が図られた。	
点検及び評価			
□目標を上回る ■ほぼ目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

2 重点目標	(3) 指導体制の確立と指導者の育成 ①スポーツ団体の組織強化と活動の充実 ②指導者の育成と活用		
3 成果指標	市スポーツ協会の構成員数 (前年) 5,894 人 (実績) 5,782 人 (R7 目標) 5,500 人 ジュニアクリニック受講者の大会参加者数 (前年) 55 人 (実績) 29 人 (R7 目標) 1,000 人 市スポーツ少年団指導者等登録人数 (前年) 284 人 (実績) 257 人 (R7 目標) 330 人		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 スポーツ協会は、統括組織として市民スポーツの健全な普及・発展を図るとともに市民の健康づくりに寄与している。 また、記念スポーツセンター、城山・毛馬内野球場の指定管理者となっており、効率的で安全な施設の管理を行っている。		スポーツ協会については、市民スポーツ活動を支える団体であるため、現在のところ補助金及び指定管理料により運営されている状態にあるが、団体の性質上、自主事業による自立が難しいことから、引き続き支援していかなければならない。	
②指導者の育成と活用 資格取得のための講習会が開催され、補助制度による負担軽減を図り、指導者を確保する。		指導者確保の面で資格取得に係る費用の負担軽減を図るため、補助制度を継続しており、スポーツ協会及びスポ少本部と連携して、資格取得に向けた取り組みを行う必要がある。	
点検及び評価			
□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

2 重点目標	(4) スポーツ施設の利用促進と整備 ①スポーツ施設の利用促進 ②スポーツ施設の整備・充実		
3 成果指標	スポーツ施設の利用者数 (前年) 192,935 人 (実績) 176,623 人 (R7 目標) 260,000 人		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①スポーツ施設の利用促進 市営野球場 城山、毛馬内 (4/10～11/10) 利用者数 5,108 人 市民プール 鹿角 (旧花輪) 利用者数 4,937 人 東山スポーツレクリエーションエリア 利用者数 78,498 人 アメニティパーク 利用者数 25,674 人 記念スポーツセンター 利用者数 7,112 人 水晶山スキー場 利用者数 11,713 人 市立ゲートボール場 利用者数 608 人 大湯相撲場 利用者数 448 人 スポーツ振興課所管以外 利用者数 42,525 人		施設利用については、指標を市内の全スポーツ施設とし、所管外施設の利用者数を加えているが、昨年度と比較した際、利用者数は減少している。	
②スポーツ施設の整備・充実 鹿角市立ゲートボール場用具庫窓交換等工事 スポーツセンター地下タンク内面ライニング工事 アルパス次亜塩素酸ナトリウム注入機更新工事 市民プールウォータースライダージョイント補修工事 スポーツセンター空調設備改修工事 アルパスアリーナ温水ポンプ更新工事 スポーツセンター照明設備更新工事 スポーツセンターアリーナ床改修工事 花輪スキー場高圧受電設備更新工事 花輪スキー場グレンデ音響設備改修工事 アルパス製氷機購入 アルパスアリーナ用バレー支柱 スクワットスタンド等購入		施設整備においては、施設の老朽化に伴い計画的な修繕等に加え、緊急的な修繕等も増加しているが、安全・安心な施設利用のため、効率的な整備が図られた。	
点検及び評価			
□目標を上回る □ほぼ目標どおり ■目標をやや下回る □目標を大幅に下回る			

Ⅳ 文化芸術振興の基本方針と重点目標

1 基本方針	ふるさと鹿角の歴史・伝統・文化への理解を深め、創造力と感性を育み、郷土が世界に誇る文化遺産を核とした心豊かで活力ある地域社会の実現を目指す。		
2 重点目標	(1) 文化芸術活動の振興 ①文化芸術に触れる機会の充実 ②特色ある文化芸術活動の推進		
3 成果指標	一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合 (前年) 23.0% (実績) 26.5% (R7 目標) 45.0%		
事務・事業の内容		成果・課題等	
①文化の杜交流館事業 ・入館者数 240,402 人 (R3 : 260,086 人 前年比 92.4%) ・文化ホール自主事業の開催 6 件 入場者 4,137 人 ・市民サポーター企画事業の開催 2 回 参加者延べ 136 人		文化の杜交流館事業については、市制施行 50 周年記念事業として劇団スーパーエキセントリックシアターによる公演や、民俗芸能フェスティバルなど多様な分野の公演を実施し、市民の芸術鑑賞の機会を確保することができた。 文化ホール等の運営や公演の企画、実施等には、様々な専門性を有した人材の育成、充実が不可欠である。	
②文化芸術振興事業 ・第 50 回鹿角市かるた選手権大会 参加者 53 人 ・歴史民俗資料館企画展示「ひな飾り」 入館者 140 人		市かるた選手権大会では、子どもから大人まで幅広い年代の参加者があり、異世代交流が図られたほか、練習会では新たに競技かるたを始める子どもが礼儀を身につけるなど学びの場となっている。 ひな飾りでは、市所蔵のひな人形のほか、市民団体製作のつるし飾りや認知症カフェの参加者が製作した折り紙を展示し、地域の文化へ理解を深めることができた。	
点検及び評価			
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る			

2 重点目標	(2) 文化財の保存と活用 ①文化財の保存・継承 ②文化財の活用
3 成果指標	無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数 (前年) 1,743 人 (実績) 1,651 人 (R7 目標) 1,740 人
事務・事業の内容	成果・課題等
①-1 文化財保存事業 ・古文書整理 45 回(週 1 回) 解説ボランティア 3 人、助言指導 2 人 ・古文書整理委員会の開催 3 回 ・古文書シンポジウムの開催 1 回、参加者 38 人 ①-2 大日堂舞楽保存伝承事業 ・大日堂舞楽保存伝承事業費補助金 1 件 ①-3 声良鶏保存奨励事業 ・声良鶏保存奨励金 1 件 ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 ・文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業) 1 件 ※文化庁令和 3 年度補正予算事業(R4 年度のみ) (修理屋台: 舟場町・新田町)	古文書整理では、解説ボランティアの協力を得て、全体箱数の 6 割の目録を作成することができた。また、5 年間の事業の成果として古文書シンポジウムを開催し、古文書整理事業の意義と活用事例等を広く周知することができた。 各種補助事業の実施により、文化財の保護と継承に対して支援を行っているが、無形民俗文化財の保存団体の構成員数の減少が続いている。最も減少数が多かった花輪ばやし祭典委員会では、若者の転出が会員減少の主要因となっているため、転出後も伝統行事の保護活動に継続して関わってもらうための仕組み作りが必要である。 また、伝統行事が中止となった事例として、3 月の春彼岸に行われる小豆沢のオジナオバナでは、年々雪解けが早まり、五の宮嶽の中腹に設置した藁等に火を灯すことにより、山火事の発生が懸念される状況となっており、環境変化により開催そのものが困難となっている。
②-1 歴史民俗資料館の運営 ・入館者数 2,649 人(R3: 2,715 人 前年比 97.6%) ・企画展、特別展の開催 5 件、参加者 1,991 人 ・体験学習、講座の開催 4 件、参加者 68 人 ②-2 先人顕彰館の運営 ・入館者数 1,309 人(R3: 1,520 人 前年比 86.1%) ・特別展示 「立山家の人びと」 ・文化講演会の開催 1 回、参加者 47 人 ・講座、教室、フィールドワーク等の開催 21 回、参加者 269 人 ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 ・入場者数 505 人 ・出演: ユネスコ登録の 5 団体: 「花輪祭の屋台行事、大日堂舞楽、風流踊(毛馬内の盆踊、鬼剣舞(岩崎鬼剣舞、川西大念仏剣舞))」	歴史民俗資料館は、常設展示のほか紫根染・茜染や鉾山など、市の歴史に係る 4 つの企画展と特別展示を開催したほか、民俗に関する講座を開催するなど、文化財を活用した生涯学習の推進を図ることができた。 先人顕彰館は、市にゆかりのある偉人に関わる展示や史跡を巡るフィールドワークなどを通じて、先人たちの偉業を学ぶ機会を創出しているほか、親子絵画教室や大人の書道教室などの新しい事業も行うことで、若年層の来館促進や館の新たな魅力発信につながった。 民俗芸能フェスティバルでは、風流踊のユネスコ無形文化遺産登録を記念した開催となったことで多くの方々から来場いただき、本市が持つ世界的文化財を間近で見ることができた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(3) 世界遺産の活用推進 ①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ②史跡環境整備 ③大湯環状列石の活用
3 成果指標	世界遺産の活用推進 (実績) 11/5 大湯ストーンサークル館開館 20 周年・世界遺産登録 1 周年記念シンポジウム ストーンヘンジ企画展への出土品出展
事務・事業の内容	成果・課題等
①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ・大湯ストーンサークル館開館 20 周年・世界遺産登録 1 周年記念シンポジウム 参加者 80 人 ・ミニパネル展 大湯ストーンサークル館 野中堂ホール ・ストーンヘンジ企画展への出展	大湯ストーンサークル館の開館から 20 年と世界文化遺産に登録となって 1 年目となることから、これまでの発掘調査・環境整備と世界遺産登録までの歩みと価値を振り返り、今後の保存と活用について考える機会を共有した。 イギリスのストーンヘンジ企画展への出土品出展により、大湯環状列石及び出土品の価値と学術的な魅力を海外へ発信する機会を得た。
②大湯環状列石環境整備事業 大湯環状列石保存活用計画策定検討委員会の開催	平成 27 年に環境整備事業が終了してから時間の経過とともに発生した新たな課題と、観光素材などの積極的な活用に向けて保存活用計画の策定に着手しており、5 年度の完成を予定している。
③-1 普及啓発・情報発信 ・入館者数 29,775 人 (R3 : 30,587 人 前年比 97%) ・遺跡ガイド ガイド対応延べ人数 1,576 人 (R3:1,025 人 前年比 153%) 利用人数 8,458 人 (R3:6,825 人 前年比 123%) ガイド利用率 (利用人数/入館者数) 28% (R3:22%) ③-2 学習機会の提供 ・体験学習 (常設) の実施 参加者延べ 1,054 人 (R3 : 1,479 人 前年比 71%) ・ガイド入門講座の開催 7 回 参加者延べ 19 人 ・ガイドレベルアップ講座の開催 5 回 参加者延べ 52 人 ・体験学習 J OMO ラボの開催 4 回 参加者延べ 26 人 ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 ・縄文体感事業の実施 縄文食体験の実施、映像コンテンツの導入	大湯ストーンサークル館は、世界文化遺産登録により、ツアー等で訪れる来館者が増え、ガイドの需要も急増した。ガイドの育成が急務となっているため、入門講座やスキルアップ講座の実施など、引き続きガイドの育成を図るとともに、基礎となる遺跡自体の学術的な魅力を高めていく必要がある。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

教育委員会事務事業点検評価 <概要>

(根拠法令)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定による

(実施要綱)

鹿角市教育委員会事務事業点検評価実施要綱（平成 26 年 1 月 6 日教育委員会訓令第 1 号）による

(点検評価の対象)

令和 4 年度に教育委員会が実施した事務事業

(点検評価の実施日)

令和 5 年 7 月 4 日（火）

(点検評価委員) ※五十音順

安保 範子 委員
石井 勲 委員
岩館 裕章 委員
田口 将 委員

(点検評価の結果)

・教育委員会事務局職員による内部評価

項 目	目標を上回る	ほぼ目標どおり	目標をやや下回る	目標を大幅に下回る
Ⅰ 学校教育の重点目標				
(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実	☐	☒	☐	☐
(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	☐	☒	☐	☐
(3) 学校教育環境の充実に図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現	☐	☐	☒	☐
Ⅱ 生涯学習推進の重点目標				
(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成	☐	☒	☐	☐
(2) 地域を担う人材の育成	☐	☒	☐	☐
(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援	☐	☒	☐	☐
(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援	☐	☒	☐	☐
(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現	☐	☐	☒	☐
Ⅲ スポーツ推進の重点目標				
(1) 生涯スポーツの普及推進	☐	☐	☒	☐
(2) スポーツによるまちづくりの推進	☐	☒	☐	☐
(3) 指導体制の確立と指導者の育成	☐	☐	☒	☐
(4) スポーツ施設の利用促進と整備	☐	☐	☒	☐
Ⅳ 文化芸術振興の重点目標				
(1) 文化芸術活動の振興	☐	☐	☒	☐
(2) 文化財の保存と活用	☐	☐	☒	☐
(3) 世界遺産登録の推進	☐	☒	☐	☐
合 計	0	8	7	0

・点検評価委員による外部評価 ・ ・ ・ 「内部評価を承認」

点検評価委員よりいただいたご意見は次のとおりです。

点検評価の結果並びに委員の意見等を踏まえ、より一層効果的に成果が得られるよう創意工夫を凝らしながら事務事業を展開してまいります。

I 学校教育の重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

⑥ ふるさとかつの絆プラン事業

【ご意見】	・大変素晴らしい事業だと思っているが、今後の流れとして全学校の組み合わせはできないものか。
【ご意見 に対し】	・学校が実施している特色ある事業を他の学校を招待して披露したり体験したりするもので、今年度は八幡平小学校が独自にやっている枝豆の収穫に花輪小学校を招待して体験する予定である。学校同士で計画を練り、工夫していろいろな学校と交流できるような形をとっている。
【ご意見】	・みんなが一堂に会する事業を小学生でも実施したり毎年開催したりして、地域全体での交流があると一つの鹿角という思いが育まれる。 ・地域それぞれのお祭りがあるのは大切なことだが、縄張り意識のようになって参加しにくいものにならないように、子どもの頃から地区を超えて交流することによって、伝統文化・文化財を担う人材の確保や増加につながっていくのではないかな。
【ご意見 に対し】	・ふるさとかつの絆プラン事業は、市校長会等での情報交換を通して新たな交流の展開も考えられるので、そのようなコーディネート的な役割を市教委が果たしていければと思っている。

⑩ ICT活用教育事業

【ご意見】	・全小学校で学習用端末の家庭への持ち帰り実証を行った検証結果はどうだったか。
【ご意見 に対し】	・コロナ禍で学校が臨時休業となった際に家庭での学習に使用できるように事前に準備し、前年度に中学校で持ち帰りを実施、令和4年度は小学校で実施した。学習用端末はインターネットに接続しなければ使えないので、持ち帰りが難しい家庭もあったため、令和5年度から就学支援事業を拡充して、ネット接続環境の整備を支援していくこととしている。 また、実際に小学校で持ち帰った状況としては、夕食の写真を撮影してくるなど、まずは簡単なところからスタートしているが、今後は徐々にドリルを解くなどの学習ができるように、家庭学習にもICTの活用を図っていきたい。

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

【ご意見】	・秋田県の小学生の「走る力」が全国でも非常に低いレベルである。これは、すべての基本となり、健康も含めて競技力向上にも関連していくことなので、注視していく必要がある。
【ご意見 に対し】	・走力、柔軟性、握力、投げる力が落ちている。特に走力の低下は問題であるため、校長会のなかでも注視しており、各校で対策をとっている。中学校は年々落ちていることを踏まえて、生徒会主催で長縄とびを競い合うなど、各学校で体力向上に取り組んでいる。

⑦かづのこもれび教室運営事業

⑧かづのこもれび相談事業

【ご意見】	・不登校傾向の児童生徒数は、前年度と比べてどのような状況か。また、お母さんに手を引かれて登校する子どもが結構多いと感じているが、2つの事業について詳しく教えてほしい。
【ご意見 に対し】	・かづのこもれび教室については、令和4年度は17人、今年度は11人が申請している。登録17人のうち日常的に通っていたのは9人である。 ・かづのこもれび相談については、学校と連携して対応している不登校傾向の人数は中学生15人、小学生20人であるが、令和4年度と比較して、今年度は若干減っているほか、各校の頑張りにより新規の不登校傾向の児童生徒があまり出ていない状況である。 ・教育センターの担当職員が聞き取りをして詳しく状況を把握しており、状況次第ではこもれび教室の入級につなげていく体制となっている。

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域ともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

【ご意見】	・新型コロナウイルス感染症での活動制限があったことが要因となって成果指標の数値が低下し、内部評価を「目標をやや下回る」としたことについては、そのことが分かるように表示した方がよいと思う。
-------	---

II 生涯学習推進の重点目標

(2) 地域を担う人材の育成

①-1「どごさデモ」出前講座の開催

【ご意見】	・新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも開催件数が増加していることは、学習機会の充実に貢献している事業だと思う。令和7年度目標値に届くのか不安だが、高齢者の学習意欲もありだんだん浸透してきているので、引き続き対応してもらえれば件数も伸びていくと思う。
-------	---

(3) 地域・学校・家庭の連携による子ども達の育ちと学びの支援

②家庭教育推進事業

【ご意見】	・事前に学校から講座内容の聞き取りをするなど、手順を踏んで取り組んでいることは大変ありがたいし、保護者の期待と一致することで大変成果が上がっているのではないかと思いますので、引き続き取り組んでほしい。
【ご意見 に対し】	・講座開催にあたっては、どういったニーズがあるのかをしっかりと汲み取ったうえで開催していくことが重要だと思うので、そのとおりに進めていきたい。

Ⅲ スポーツ推進の重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

【ご意見】	・チャレンジデーが今年で終了となる中で、数値の取り方等々も踏まえると、市民がどれだけスポーツに親しんでいるのかしっかり捉え切れていないので、評価が難しいと感じている。 ・成果指標「週 1 回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合」の実績の根拠を教えてほしい。
【ご意見 に対し】	・毎年行っている市民アンケートの結果である。対象者数は 900 人で回収率は 47.9%、前年度の回収率は 70.9%である。

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

②指導者の育成と活用

【ご意見】	・成果指標の「市スポーツ少年団指導者等登録人数」については、日本スポーツ協会資格制度への完全移行により間違いなく激減する。令和 7 年度目標数値の 330 人はおそらくクリアできないため、実態に合うように見直した方がよいのではないか。 ・部活動指導員が 4 人になり、中学校部活動の地域移行も進むと、指導者の確保が大きな問題になってくると思うが、スポーツ少年団のみにこだわらず、指導者「等」の部分も含めて今後検証していく必要があると思う。
-------	--

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

【ご意見】	・利用者数の減少により内部評価を「目標をやや下回る」としているが、新型コロナウイルス感染症による活動制限や、施設の改修工事等で利用できなかったことによるもので、そのことがわかるようにした方がよいと思う。
-------	---

Ⅳ 文化芸術振興の重点目標

(1) 文化芸術活動の振興

【ご意見】	・高齢化により自家用車を手放すと行動範囲が狭くなるので、成果指標「一年間に芸術鑑賞に親しんだ割合」は今後も減少していくと思われる。老人クラブ等でも市バスを借りるが、使いたい時に使えるように交通手段を確保できれば芸術鑑賞の割合も増加すると思う。
【ご意見 に対し】	・公共交通や福祉行政のケアもあるほか、芸術鑑賞を開催するにあたっては公共交通機関を使いやすい時間帯で設定するなど工夫できると思うので、いろいろ検討していきたい。

(2) 文化財の保存と活用

【ご意見】	・成果指標の「無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数」は目標値を達成できないかも知れない。小中学生への伝承により若者も頑張っているが、すぐに指導者になれるわけではないので厳しい状況が続いている。財政面や人材育成の支援により、少しでも長く伝承につながっていくように取り組んでいただきたい。
【ご意見 に対し】	・ユネスコ無形文化遺産登録 3 団体への補助金を拡充したほか、国・県・市指定無形民俗文化財保存団体に対し、担い手を育てるための講座開催等に係る費用を支援する補助金を新設している。また、自治会の活性化を支援する集落支援員等の事業があるので、連携しながら進めていきたい。

②-2 先人顕彰館の運営

【ご意見】	・先人顕彰館の入館者は、ほとんどが大湯や毛馬内の地元の人で、他地区の人はなかなか足が向いていないと思うので、魅力的な催し物を探っていかなければと思う。
-------	---

(3) 世界遺産の活用推進

①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携

【ご意見】	・外国にも石の文化があり、ストーンサークルを通してお互いに交流したり文化を理解し合えたりするのが面白い。ストーンヘンジ企画展へはどのような経緯で出展となったのか。また、出展したことによって何か反応はあったのか。
【ご意見 に対し】	・イギリスでは、ストーンヘンジを中心に周りの村々にも同じようなストーンサークルがあり、その自治体の長から鹿角市と連携していきたいと要請があったものだが、10 年前に本市を訪れたことがあるサイモン・ケイナー博士も日本の縄文に大変興味を示しており、ストーンヘンジ展示の責任者として活動している。今年 8 月末にはストーンサークル館の職員が招待され、伊勢堂岱を含めて、ミニ講演を行う予定があり、人的な交流も深まりつつある。 また、その成果を確認しているところである。

③-2 学習機会の提供

【ご意見】	・ストーンサークルはいつ行っても車が多く世界遺産登録がネームバリューになっていると感じるが、地元にも見たことがないという子どもが多いので、ストーンサークルの見学を授業に組み込むことができるよう学校にPRしてほしい。
【ご意見 に対し】	・ふるさとかつの絆プラン事業で十和田小学校と大湯小学校の児童は縄文体験をしているが、花輪や八幡平地区の子どもたちは校外学習などがなければなかなか行かないと思うので、校長会等でPRしていきたい。

○その他

【ご意見】	・設定した成果指標や最終年度（令和 7 年度）の目標値は随時見直しすることができるのか。社会情勢が変わったり制度の変更によって、設定した目標値と実績に乖離があるものは柔軟に変更できた方がよいのではないかな。
【ご意見 に対し】	・市の総合計画前期基本計画や実施計画の中で掲げた指標を、教育の指標としても設定しているものである。市の計画では、数値目標を立てる段階で審議会等の意見を聞いて設定しており、業務の取組状況のバロメーターとして捉えている。 ・大幅な制度変更により指標自体が存在しなくなったという場合であれば、庁内で協議のうえ改めてお示ししたい。